

J-DAVID News



Japan Dialysis Active Vitamin D Research Group

今年は終戦70年。連日の猛暑日も一段落。桜島も小噴火のみ。油井さん「このとり」ナイスキャッチ。台風15号の後、朝晩は秋の気配。鳴く虫の声で季節を感じます。8月も終わり、夏の思い出を胸に、学生たちは新学期へ。さ〜て今月のメッセージは、昭和大学の本田浩一先生と春日井市民病院の成瀬友彦先生からいただいております。

世話人・幹事からのメッセージ

「ビタミンDへの期待」

昭和大学江東豊洲病院
内科系診療センター 腎臓内科
本田 浩一 先生

魚類のCa調節系は、鰓を介した環境水からのCa摂取と過剰なCa蓄積を防ぐための腎による排泄で維持されている。骨におけるCaの貯蔵は、カルシトニンによるCa骨貯蔵能を有してはいるが、骨自体は支持器官としてのみ機能し、副甲状腺ホルモン(PTH)によるCa・Pの恒常性維持と骨代謝の調節系は存在しない。ビタミンDは魚類にも認められるが、ビタミンD活性化の調節系やその生理作用は陸生動物とは異なると推測される。

脊椎動物が水生から陸生に移行すると、生体維持のために骨による骨格を構築し、陸生環境に適合したCa・Pの恒常性維持が要求され、骨のCa・P貯蔵、Ca・Pの消化管摂取などの機能を獲得した。この進化の過程でPTHが創造され、ビタミンDを含む各々の調節系が発達し、複雑にクロストークをしながらCa・P恒常性を維持する生態へと発展した。この調節系で興味深いことは、老化抑制因子klothoがfibroblast growth factor 23とともに腎尿細管でのCa・P調節に密接に関係し、ビタミンD活性化の調節にも関与することである。

さらにビタミンDの作用はCKD-MBDに関する作用以外に、筋肉代謝亢進、抗動脈硬化、抗炎症・酸化ストレスや免疫システムなどに関係する。つまり、ビタミンDは陸生脊椎動物の進化の過程で個体の生命予後に直結する必須の因子として発展したわけである。

一方、透析患者は前述の腎での調節系が破綻して活性型ビタミンDは枯渇し、尿毒素が蓄積した生態環境下におかれている。現在、透析患者のビタミンD療法は、CKD-MBD治療の枠組みの中で実施されている。J-DAVID試験は透析患者の生命予後に対するビタミンD療法の意義を検証する目的で立案された臨床試験である。透析患者における補充療法としてのビタミンD療法はCKD-MBD領域を超えるのか、この疑問に答える成果を期待したい。



「肝油ドロップの思い出」

春日井市民病院 腎臓内科
成瀬 友彦 先生

先日当院の若手の先生が、夏休みをとりたいが良いでしょうか？と相談に来た。“もちろんOKだが、どこに行くの？”と聞いたところ“宇宙です。”と！冗談かと思ったらこれが本当で、なんでもロシアに行き2人乗りミグ戦闘機で大気圏まで行くというツアーに応募したそうで、ウン百万かかるとのこと。まだまだ若いつもりでいたが時代は変わったもんだなあ、と実感させられました。もし自分に“夏休みの思い出は？”と聞かれても最近は大した出来事も無く、思い出の大半は子供時代にさかのぼります。その思い出されることの一つが、“肝油ドロップ”です。保育園に通っていた頃、普段は先生から一日一粒ずつしかももらえない肝油ドロップが、夏休みには日数分いっぺんにももらえるのです。この肝油ドロップ、食べた方はわかると思うのですが意外とおいしく、保育園の先生から“一日一粒ずつ食べなさい”と言われていても、大抵夏休み最初の2、3日で全部食べてしまったものです。この肝油ドロップ、中身はビタミンA、ビタミンDなどが含まれており、元々は戦後の栄養失調の子供から“鳥目”や“クル病”を防ぐために提供されていたとのこと。昭和40年代前半に幼少期を過ごした我々が肝油ドロップを知る最後の世代かもしれませんが、今思えばビタミンDの内服ミニミニパルス療法を自ら実施していたのかもしれない。時は流れ平成の時代になり栄養失調は遠い過去の話になりましたが、いまだに透析回診で大量の薬に閉口する患者さんでさえも“ビタミンDを処方します”という抵抗なく受け入れてくれます。“ビタミン”という響きには不思議な力があるのでしょうか。現在進行中のJ-DAVID試験でもビタミンDの素晴らしい効果が証明されるであろうことを信じています。(…ちなみに宇宙飛行士の骨粗鬆症予防にはビタミンDではなくビスフォスフォネートが使われているようです。)



最新進捗状況

進捗状況を報告いたします。(8月28日現在)

症例報告書回収状況報告

	観察開始時	3ヶ月目	6ヶ月目	12ヶ月目	18ヶ月目	24ヶ月目	30ヶ月目	36ヶ月目	42ヶ月目	48ヶ月目
前月	976	936	923	879	844	804	725	689	655	602
今月 (前月比)	976	936 (-)	923 (-)	879 (-)	844 (-)	804 (-)	725 (-)	688 (-1)	655 (-)	617 (+15)

内容確認書(クエリー)回収状況報告

	開始時	3ヶ月目	6ヶ月目	12ヶ月目	18ヶ月目	24ヶ月目	30ヶ月目	36ヶ月目	42ヶ月目	48ヶ月目	コンプライアンス	中止時	脱落基準	SAE (イベント含む)	総数
発行	1137	810	652	660	638	578	579	462	411	445	1536	202	30	255	8395
回収	1137	777	616	627	594	528	529	434	372	380	1427	183	29	238	7871
回収率 (%)	100.0	95.9	94.5	95.0	93.1	91.3	91.4	93.9	90.5	85.4	92.9	90.6	96.7	93.3	93.8

J-DAVIDデータセンターからのお知らせ



症例報告書回収にご協力ありがとうございます

今月までの48ヶ月目症例報告書の回収率がほぼ90%となりました。ここ数カ月頻りに催促をさせていただきましたがこれに対してご支援いただきありがとうございます。42ヶ月目以前の症例報告書はいずれも回収率90%以上で、全症例回収まであとわずかです。症例の試験期間4年の間に、ご担当されていた先生の退職、異動などが多々見受けられましたが、各ご施設で担当を交代され引き続き観察を続けていただきましたこと深く御礼申し上げます。

「症例報告書受領一覧」をお送りします【重要】

症例登録のあるご施設の代表者様へ「症例報告書受領一覧」を今月号J-DAVID newsに同封してお送りいたします。内容をご確認ください。未提出書類があるようでしたら至急ご提出くださいますようお願い申し上げます。ご不明な点がありましたらデータセンターまでお問い合わせください。なお、今月中旬以降ご提出いただいた場合、症例報告書受領一覧に反映されていないことがあります。ご了承ください。

最近の文献から

新規VDRA VS-105はエナラプリル投与下の5/6腎摘ラットの心機能を改善する

Vitamin D receptor agonist VS-105 improves cardiac function in the presence of enalapril in 5/6 nephrectomized rats

Wu-Wong JR, et al. Am J Physiol Renal Physiol 308: F309-19, 2015

【ポイント】5/6腎摘ラットモデルにおいて、VS-105はCaを上昇させずPTHを下げた。VS-105は単独でエナラプリルと同等の降圧作用を示し、心肥大を抑制したが、エナラプリル併用で更なる心肥大抑制効果はなかった。VS-105は小腸のCa吸収促進作用がなく、CaトランスポーターCalb3やTRPV6の発現を促進しない。

【詳しくは】<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/25503724>

編集・発行：J-DAVID研究会事務局
〒545-8585大阪市阿倍野区旭町1-4-3
大阪市立大学大学院医学研究科
代謝内分泌病態内科学 内
電話 06-6645-3806 FAX 06-6645-3808
J-DAVID試験データセンター
電話 06-6645-3443 FAX 06-6646-3588

J-DAVIDのホームページ
<http://j-david.info/>